

公立諏訪東京理科大学『データサイエンス・AI人材リテラシー教育プログラム』

自己点検評価（2020年度）

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	C	新型コロナウイルス感染症の影響による年度冒頭の学生周知が十分にできなかったことにより履修者数が極端に少なかったが、原因がはっきりしており、2021年度はこれら原因への対策がとれ結果も出ている（履修者数が前年の約70倍）。しかしながら、計画達成にはまだ不足な状況であり、今後さらなる活動が必要である。
・学修成果 ・学生アンケート等を通じた学生の理解度	B	履修者の試験及びレポートを確認した結果、しっかりと内容を理解している。さらに、履修学生はプログラムに関する21科目の選択科目について平均して12.5科目を履修（2021年前期時点）し、より発展的な学習に主体的に取り組んでいる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	2021年度履修者が前年比約70倍という結果になっており、今後もさらに履修希望者が増加することが期待できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	修学ガイダンスでの丁寧な周知等により履修者数は増加している。ただし、年度計画の目標値には達してはいないため、今後の履修率向上に向けさらなる工夫が必要である。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	2021年3月卒業時点で修了者はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	産学連携機構の人工知能・IoT研究部門および地域情報・マネジメント研究部門において、地元産業界からAI等に関する共同研究を12件実施している。共同研究には、卒業研究生や大学院生も参画し、この活動を通して研究結果のみでなく教育についても産業界と意見交換をしており、現状のリテラシーだけでなく、多くの専門的な科目が配置されている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	学部のディプロマポリシーを「これからの産業界をリードする人工知能などの情報応用技術または地域産業のものづくりを支える機械電気技術に関する工学分野における専門家」と定め、大学を上げて人工知能などの情報応用技術における専門家を目指し、これを学生に周知している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	学生からの授業アンケートの結果をフィードバックし、修正点があればシラバスに反映する。シラバスは、教員同士ピアレビューをすることにより、学習内容水準の維持・向上に努めている。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した

B：審査項目の観点通りの成果を達成した

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない